

デジタルで切り拓く 金融の未来

CDIOの私が
社内のディスラプターとなり、
新しい領域への
チャレンジを牽引します

執行役専務
グループCDIO
谷崎 勝教

近年、デジタル化の進展が、社会・経済を大きく変容させています。テクノロジーの進歩の速度は目覚ましく、SMBCグループはまさにパラダイムシフトともいえる、ビジネスモデルそのものが大きく変わりうる局面に直面しています。これは私たちにとって大きなチャレンジであることは間違いありません。しかし、こうしたテクノロジーの進歩を取り込んで、私たち自身が進化する余地は大きく、さらには、他のパートナーと結び付くことで、従来にはない新たなビジネスを生み出していけると考えています。

私たちの中期経営計画「SMBC Group Next Stage」では、デジタル化を、7つの戦略事業領域のすべてに跨り全体を貫く柱として位置付けています。具体的には、お客さまの利便性向上、新規ビジネスの創造、生産性・効率性の向上、経営インフラの高度化といった側面から、あらゆる事業領域で、AI（人工知能）やブロックチェーンをはじめとした新たなテクノロジーを取り込んだデジタル化を推進しています。

たとえば、キャッシュレス決済分野においては、金融とIT、マーケティングを融合させたハイブリッドなソリューションの提供に向けて「次世代決済プラットフォーム」の構築を進めているほか、決済等を通じて蓄積されたデータを用いることで、よりパーソナ

ライズされたマーケティングの実施や、より精度の高いリスク分析に基づく高度な金融プロダクトの開発・提供に向けて取り組んでいます。また、「情報銀行」のように、データを活用した新たなビジネスモデルも生まれつつあり、将来的にはSMBCグループが「金融業」から「情報業」になっていく可能性もあると考えています。

デジタル化の取組で外部からも高い評価



Cyber Security部門で表彰
(英Financial Times誌 傘下のメディア)



経済産業省・東京証券取引所による
「攻めのIT経営銘柄2019」

全社横断的な変革と、新領域へのチャレンジ

デジタル化の取組をスピーディーかつ効果的に進めていくためには、自社グループ内の知見だけでなく、お客さまや、ベンチャーを含むパートナー企業が持つデータや技術、ノウハウを適切に組み合わせたオープンイノベーションが不可欠です。従来の自前主義にこだわることなく、API等にも取り組みながら、パートナーとの共創を通じた事業開発に注力しています。

また、SMBCグループのデジタル化においては、専門的なスキルを持った一部の尖った人材や部署によるイノベーションの創出だけでなく、グループ全体にデジタル化を浸透させていくことが重要だと考えています。そのためにも、全社員、特に若い従業員が新しい取組に臆することなく挑戦できる環境の整備を進めるとともに、CDIOである私自身が、社内の「ディスrupter」となり、既存の枠組に囚われない発想に基づく施策を先頭に立って推進しています。

このように、営業スタイルや本部スタッフの働き方を含めた、ビジネス・カルチャーの全社横断的な変革と、新領域へのチャレンジを両輪で加速させていくことで、より質の高い魅力的なサービスを創出し、それらを個人、法人を問わずあらゆるお客さまに提供していきます。



国際金融協会（IIF）春季総会に登壇

世の中のデジタルイノベーションが急速に進む中、
IT戦略は、重要な経営戦略のひとつです。
SMBCグループでは、7つの戦略事業領域のすべてを支える取組として、
攻めと守りの両面からデジタルイノベーションを推進しています。
その具体的な取組を、いくつかご紹介します。

オープンイノベーションの推進

ワークショップ「SMBC BREWERY」がスタート

2018年4月、異業種企業とアイデアを共創するワークショップ「SMBC BREWERY」がスタートしました。SMBCグループと、スタートアップも含めた異業種企業が集まり、半日間で協業アイデアを出し合っています。

このワークショップを通じて、SMBC日興証券は、AIに強みを持つスタートアップ企業HEROZ社と協働し、投資情報サービス「AI株式ポートフォリオ診断サービス*」の提供を開始しています。

*株価や決算データをもとに、1ヵ月後の収益率を予測し、期待収益率の高いポートフォリオをAIが提案します。



先端技術の発掘

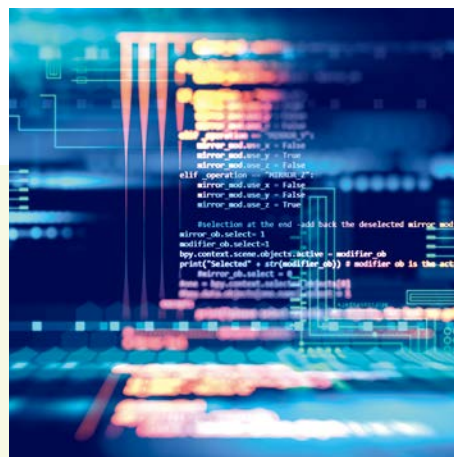
SMFGシリコンバレー・デジタルイノベーションラボ

米シリコンバレーに設置した「SMFGシリコンバレー・デジタルイノベーションラボ」は、現地のスタートアップ企業の発掘を担っています。たとえば、2019年3月、データ分析を圧倒的に加速化するソフトウェア「Trifacta Wrangler Enterprise」の利用を開始しましたが、これを開発した米Trifacta社は、同ラボが発掘しました。



先端技術ラボの設置

グループ傘下のシンクタンクである日本総合研究所に先端技術ラボを設置しており、IT企業や研究機関と連携し、基礎技術や先端技術の研究、検証を担っています。



AIの活用

アンチ・マネーローンダリングへの取組

アンチ・マネーローンダリングへの取組において、マネーローンダリングが疑われる取引の判定業務にAIを導入し、業務の効率性を大きく向上させました。

SMBCチャットボット

社内の照会業務向けに開発した対話型のAI自動応答システム「SMBCチャットボット」等、実用化したシステムを一般のお客さまにも積極的に販売しています。

企業の業況変化検知システム

ITコンサルティングやシステム構築を行うJSOL*と共同開発した企業の業況変化検知システムは、取引先企業の口座の動きをAIが分析し、タイムリーに業況の変化を察知するものです。三井住友銀行内では既に実用化しており、今後は地方銀行を中心に販売していく計画です。

* JSOLはNTTデータの子会社で、三井住友フィナンシャルグループの持分法適用関連会社

データ分析の高度化

デジタルマーケティング施策の推進

Yahoo! JAPANと共同で新設したブレインセルは、改正銀行法下の銀行業高度化等会社です。Yahoo! JAPANが蓄積してきた検索ノウハウを活用しながら、まずはSMBCグループのデジタルマーケティング施策を推進しています。

情報銀行に関する実証実験事業

三井住友銀行と日本総合研究所は、情報銀行に関する実証実験事業を総務省から受託しています。健診データや病院での診療結果、処方箋等を、他の病院や調剤薬局と共有し、個人の利便性向上を目指しています。

